

コード	名称	区分	コード	名称
事業名 1193	伊賀市水道配水管更新事業	会計		水道事業会計
基本 施策	21 安全でおいしい水道水を安定供給する	款		資本的支出
		項		建設改良費
		目		配水給水施設費
行革大綱の重点事項番号		細目		伊賀市水道配水管更新事業
担当部課	コード	340300	担当者 氏名	山本 学
	名称	水道部 施設課		
		連絡先	24 - 0002 (内線) 210	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市水道給水区域内の全市民を対象とする。 ※対象件数 89, 249人
成果(どうする)	給水区域内において水道管の漏水防止及び、水道水の安定供給を図る。
根拠法令・要綱等	水道法、水道法施行令、水道法施行規則、国庫補助金交付要綱
開始年度	平成 12 年度
終了年度	平成 22 年度
関連事業	
H21 事業 内容	伊賀市上水道区域の鑄鉄管布設替(配水管更新事業)を行い、漏水を防止して有効性の向上に努め、安定供給を確保した。 平成21年度工事内容 配水管布設替工事 L=809m 配水管布設替に伴う舗装工事 A=1, 610㎡
社会情勢 の変化等	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	5,700,000 千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	実績	目標	実績
			実績	目標	実績	目標

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
	老朽管更新	整備率	%	目標 65 実績 65	目標 70 実績 68	73	

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	56,009	93,000		303,000				
A の 財 源 内 訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債	40,000	50,000		110,000			
	その他							
一般財源	16,009	43,000		193,000				
事業投入人件費 (B)	1.5 人 10,800	1.5 人 10,800	1.5 人 10,800	1 人				
フルコスト(A)+(B)	66,809	103,800		313,800				

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	
	予算の繰越の有無 有	【計画に遅れが生じている場合、改善策】 配水管布設替工事において、一部工事を繰越したので、今年度地元調整等も含め早期に着工する。
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市上水道としての水道事業の一元化を踏まえ、伊賀市全体としての事業を推進する。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 安心、安全な水を供給するため、地震に強い耐震管の布設及び漏水防止のための老朽管の布設替を行ない事業を推進した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	坂本 忠久
事業の方向性	【方向性】 他事業と統合
	【理由】 伊賀市上水道としての水道事業の一元化を踏まえ、伊賀市全体としての事業を推進する。
現時点における 課題、その他	平成22年度は8件の発注を予定している。地域関係者の理解をもとめる。また、平成23年度から国庫補助事業として水道広域化事業のメニューにより、老朽管更新事業が実施できることとなった。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	課題については、上記と同様で、改善策としては22年度工事発注までには地域関係者の理解を求め、平成23年3月末には完成する。尚、平成23年度から補助対象事業として実施する。